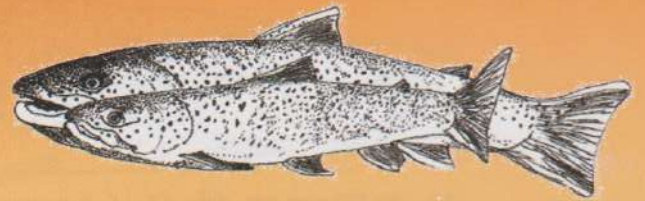


# 斜里川のイトウ保護のためのお願い

斜里川では僅かですがイトウの自然繁殖が確認されています  
斜里川のイトウを未来に遺していきましょう



イトウは斜里川を象徴する魚ではありますが、近年では生息数が激減しています。これまで行なわれた調査から、産卵に参加するメス親魚の数は斜里川水系全体で 5~10 匹程度と推定され、河川環境の悪化も進んでいることから、斜里川のイトウ個体群は絶滅が危惧される状態となっています。

斜里川で釣りをする皆様にはイトウ保護のために次の点をお願いします。

- イトウの産卵期である4月・5月はイトウ狙いの釣りはお控えください
- 産卵期以外でもイトウを釣り上げた場合にはリリース(再放流)をお願いします
- イトウが釣れる可能性のある場所では、魚体への損傷を低減する仕掛け(シングルフックやバースレスフック等)の使用をお願いします
- 斜里川水系内にニジマスやブラウントラウト、他の水系から持ち込んだイトウを放流しないようお願いします\*

\*ニジマスとブラウントラウトは、イトウと産卵期・稚魚生息環境が同じであり、交雑・競合によりイトウの生息を脅かす可能性があります。イトウは生息する川ごとに、大きさや生態が異なります。移植放流は、そうした川ごとのイトウの個性を混ぜ、取り返しのつかない影響を与える可能性があります。

当会ではイトウの調査・生息環境保全活動等を行っていますが、イトウ保護の方策として全面禁漁を選択せざるを得なくなる事態は避けたいと考えています。多くの人は釣りを通じてイトウの価値を感じていますし、釣りを通じて関心が持たれ続けるからです。将来もイトウのいる斜里川であり続けるよう、ご協力をよろしくをお願いします。

イトウ若魚(斜里川水系6月)



生まれたばかりのイトウ稚魚(斜里川水系7月)

# イトウの見分け方

大きくなると威風堂々の体格になるイトウですが、若魚のうちは、体型はアメマスに、模様はヤマメやニジマスに似ています。その見分け方のポイントを紹介します。

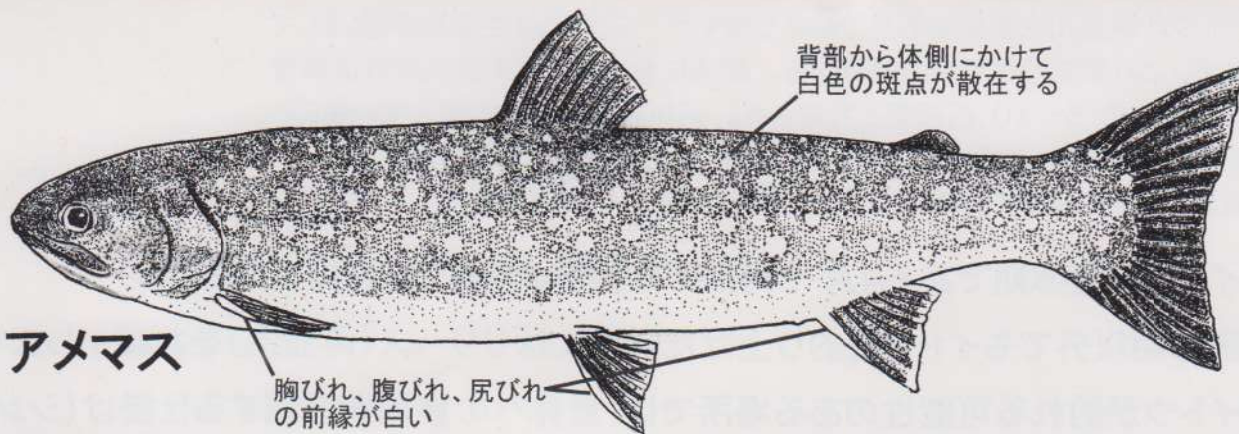
10cm



背部に小黑点が散在する

イトウに比べて  
体高比が大きい

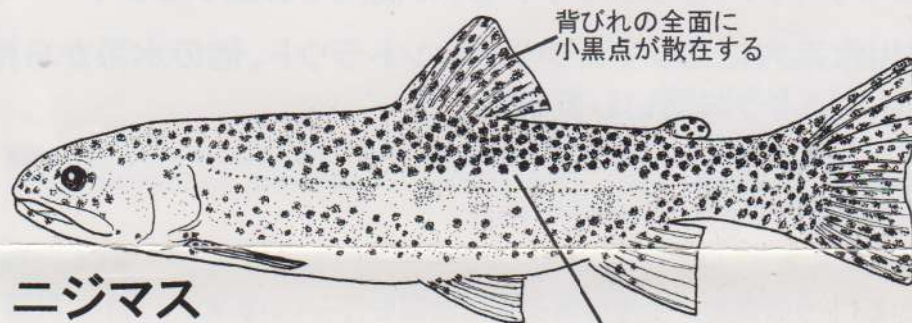
サクラマス幼魚(ヤマメ)



背部から体側にかけて  
白色の斑点が散在する

アメマス

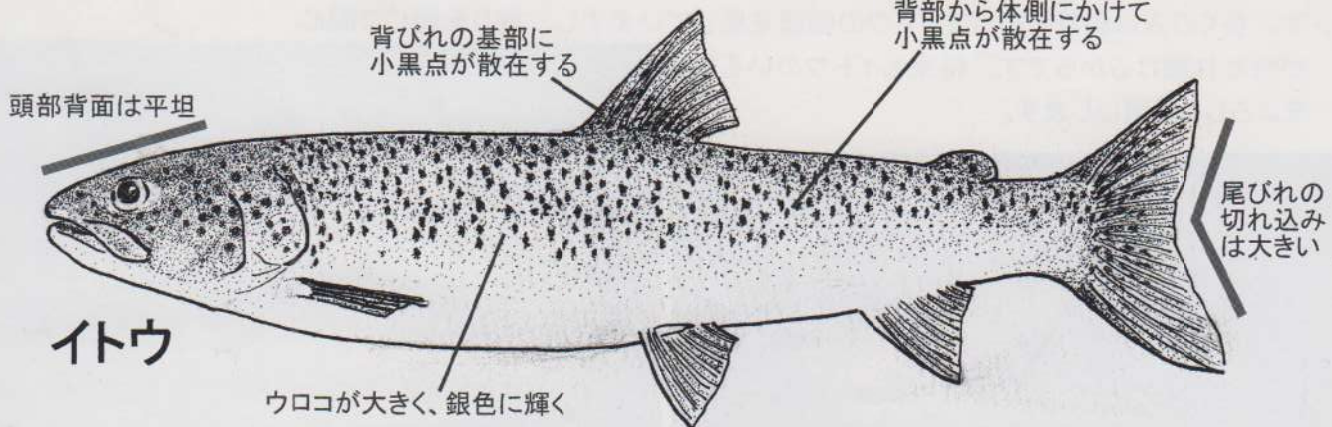
胸びれ、腹びれ、尻びれの  
前縁が白い



背びれの全面に  
小黑点が散在する

尾びれの  
切れ込み  
は小さい

ニジマス



頭部背面は平坦

背びれの基部に  
小黑点が散在する

背部から体側にかけて  
小黑点が散在する

尾びれの  
切れ込み  
は大きい

イトウ

ウロコが大きく、銀色に輝く